

令和 2 年 5 月 4 日現在

機関番号：11301  
 研究種目：基盤研究(C) (一般)  
 研究期間：2017～2019  
 課題番号：17K04522  
 研究課題名(和文) 宗教と教育 - 啓蒙時代の宗教観および自然観を起点に -  
  
 研究課題名(英文) Religion and Education  
  
 研究代表者  
 笹田 博通 (SASADA, Hiromichi)  
  
 東北大学・教育学研究科・教授  
  
 研究者番号：80154011  
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：(1) 18世紀啓蒙時代の思想(ルソー、ゲーテら)に基づいて、宗教/自然/教育をめぐる啓蒙時代の思索の系譜を解明することで、啓蒙時代以降の自然観の輪郭を浮かび上がらせた。  
 (2) 現代宗教教育論との関わりにおいて、啓蒙時代の自然観が有する今日的意義を究明し、現代教育哲学の新たな視点及び問題を提起した。  
 (3) 啓蒙時代の思索への新たな見地から、宗教と教育との関係を問い直し、その成果を教育哲学的に吟味することで、現代教育哲学の新たな考え方を提示した。

## 研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は3年間という比較的短期の研究期間を設定し、互いに役割を十分に果たせるよう、課題を3つに分割したうえで研究を進めた。その結果、学術雑誌『プロテウス』及び『日本仏教教育学研究』での論文発表、「日本ヘルダー学会」及び「第5回 仏教教育学研究会」でのシンポジウム発表、科研費研究成果報告書での論文発表、大学生を対象とした『考える道徳教育』を出版することが出来た。本研究成果を広く社会に還元することで、一定の学術的意義や社会的意義を持っていると考えている。

研究成果の概要(英文)：(1) This research was based on the results of considering the thought of Rousseau, Goethe and other important philosophers of the Enlightenment in the 18th century. It clarifies a genealogy of the thought of religion, nature and education in the period of the Enlightenment, and furthermore outlines the view of nature after the period of the Enlightenment.  
 (2) This research also elucidated the relationship between the nature-views of the Enlightenment and the modern theory of the religious education, so a new viewpoint and new issues regarding the modern educational philosophy are proposed.  
 (3) The relationship between religion and education is reconsidered from this new standpoint to the thought in the period of the Enlightenment, and the results of these inquiries on the viewpoint of the educational philosophy suggest the importance of a new way of considering modern educational philosophy.

研究分野：教育哲学

キーワード：宗教 教育学 教育哲学 啓蒙 自然観

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

本研究に携わった者たちは、もともと、ゲーテ自然学を共通の基盤に啓蒙時代の自然観及び教育観の研究を行っていたが、数年前、それまでの研究成果を点検・反省するといった自己評価を試みたところ、啓蒙時代の自然観のみならず、その時代の宗教観に関する検討が不可欠であるとの認識に至った。

一方、啓蒙時代の思想研究については、当時、2012年6月におけるルソーの生誕300年が一つの機縁となって、ヨーロッパでは、たとえば新たな『ルソー全集』(フランス)や『カッシーラー著作集』(ドイツ)が刊行されるなど、ルソー、ゲーテら啓蒙時代の思想家に関する研究基盤の再整備が進められていた。わが国でも、本研究の協力者の森淑仁・東北大学名誉教授が『カッシーラー：ゲーテ論集』、『象徴形式の形而上学 エルンスト・カッシーラー遺稿集』、『ゲーテ＝シラー往復書簡集』等を立て続けに上梓しており、それに触発されてわれわれは、共同研究へ向けての準備をすでに整えつつあった。というのも、われわれは1988年に「仙台ゲーテ自然学研究会」(本部：東北大学大学院教育学研究科・笹田研究室、会員：研究代表者・研究分担者・研究協力者ほか)を創設し、ゲーテ自然学に関連した諸文献の研究、国内外の研究者を招いての講演会開催、学術誌『プロテウス 自然と形成』の刊行(1993年に創刊し、2020年現在、19号まで刊行)、論文集『多元的文化の論理 新たな文化学の創生へ向けて』(東北大学出版会、2005年)、『教育的思考の歩み』(ナカニシヤ出版、2015年)の出版、カールスルーエ教育大学(ドイツ)との学術交流、科学研究費補助金での共同研究(「自然と教育 ゲーテ自然学の周辺と人間形成観の現在」2009-2011年度、「18世紀啓蒙主義の自然観と現代の教育哲学」2013-2016年度)の実施、日本ヘルダー学会におけるシンポジウムの企画・開催など、種々の研究活動を行って多大な成果を上げ、研究実績を着実に積み重ねていたからである。

今回、「宗教と教育 啓蒙時代の宗教観および自然観を起点に」というテーマのもとに会員が結集し、学際的なプロジェクトを遂行するに至ったのはこのような経緯による。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、啓蒙時代の教育(人間形成)観をその時代の宗教観・自然観との関わりから多角的・重層的に探究し、啓蒙時代(18世紀)の教育観の今日的意義、とりわけ「宗教と教育」をめぐる教育哲学研究に対するインパクトを解明することにあつた。こうした目的を実現するために本研究の基軸としたのがルソー、ヘルダー、ゲーテ、シラーらの教育思想であり、これを共通の基盤として、啓蒙時代における宗教/自然/教育の思索の一つの系譜を明らかにしていった。つまり、本研究では「宗教と教育」という懸案に取り組む有力な指標を上記の思想のうちに見て取り、これを一つの基点としてふまえつつ、啓蒙時代における宗教観・自然観・教育観の有機的連関を描き出し、そこから現代の教育哲学の新たな局面を切り開くことが目指された。

さて、ルソーやゲーテといった啓蒙時代の思想家に端を発する研究領域は、教育学、哲学、社会学、文学、自然学(植物学等々)、宗教学などきわめて広汎な領域にわたっている。彼らの思想はいずれの領域でも人間形成にとっての自然の深遠な意味を示唆しており、ことに、研究代表者の領域である教育学=人間形成論にその原理的基礎づけの視座を提供しているが、ただし、彼ら啓蒙時代の思想家の思索が包蔵する教育学的意義を十分に確証していくためには、教育学のみならず、さまざまな学問分野の研究者が共通の問題意識をもって連携する必要がある。つまり、教育学=人間形成論以外の、ドイツ文学、哲学、自然科学等の分野での研究内容を積極的に取り入れていくことが要請される。

こうしたスタンスを堅持しつつ、本研究は第一に、宗教/自然/教育をめぐる啓蒙時代の思索の系譜について探査し、第二に、啓蒙時代とそれ以降の自然観及び宗教観を教育哲学的に考察し、そして第三に、これらの作業から宗教と教育との原 関係を教育哲学的に吟味しようとした

## 3. 研究の方法

- (1) 自然学及び関連領域(教育学・教育思想、宗教学、道徳教育学、近代精神史、近・現代の哲学、近・現代の自然科学)の文献調査・読解
- (2) 海外(ドイツ、スイス)での研究討議・実地調査
- (3) 定期的で開催される研究会での討議

## 4. 研究成果

本研究は三年間という比較的短期の研究期間を設定し、互いに役割を十分に果たせるよう、課題を三つに分割したうえで次のような体制を構築した。(1)宗教/自然/教育をめぐる啓蒙時代の思索の系譜を解明することで、本研究の基盤を形成しつつ、啓蒙時代以降の自然観の輪郭を浮かび上がらせる(課題 )。(2)宗教学との連関から、啓蒙時代の自然観が包蔵する教育学的意義を究明し、現代教育哲学(人間形成論)への新たな視点と問題意識を提供する(課題 )。(3)課題 及び から導き出された新たな見地に立って、宗教と教育との関係を問い直し、その成果を教育哲学的に吟味することで、現代教育哲学の新たな枠組みを構築する(課題 )。

課題 (宗教/自然/教育をめぐる啓蒙時代の思索の解明)に関しては、研究分担者・佐藤が、

ルソーにおける「事物の教育」論を現象学の文脈のうちで捉え直すこと、さらに、ルソーの宗教観の特質を「信仰」と「国家」との関係に即して捉え直すことをとおして、また研究分担者・相澤が、啓蒙時代での「知識の体系化」を「自然と教育」との関わりから検討すること、啓蒙的思考をドイツの宗教教育の現状との関わりから再検討すること、さらに、「子供の学」としてのルソーの教育学における「発達」の問題を吟味することによって、それぞれ、啓蒙時代以降の自然観・宗教観・教育観の思想的輪郭づけに従事した。

課題（啓蒙時代以降の自然観・宗教観の教育哲学的考察）に関しては、研究代表者・笹田が、啓蒙時代以降の自然観及び宗教観の今日的意義について、カッシーラー、ハイデガー、西田幾多郎らの現代哲学をふまえながら、教育哲学、とりわけ人間形成論の視点から研究することをおして、また研究分担者・小池が、近代公教育の黎明期における「宗教と教育」の問題について検討することによって、それぞれ、啓蒙時代以降の自然観・宗教観の教育学的位置づけに従事した。

課題（宗教と教育との原 関係をめぐる教育哲学的吟味）に関しては、笹田・佐藤・相澤・小池が、それぞれ、課題 及び の作業をふまえてこの課題の遂行に携わり、教育学研究における新たな問題意識を喚起しようとした。

なお、各課題に関する研究成果については、

『プロテウス - 自然と形成 - 』（仙台ゲーテ自然学研究会機関誌）及び『日本仏教教育学研究』（日本仏教教育学会機関誌）での論文発表、「日本ヘルダー学会」でのシンポジウム（「啓蒙時代の宗教観と近現代の宗教教育」）、「第5回仏教教育学研究会」でのシンポジウム（「特別の教科道徳」をめぐって 仏教教育学の立場から）でのシンポジウム、科研費研究成果報告書（『宗教と教育 啓蒙時代の宗教観および自然観を起点に 』）での論文発表、教科書『考える道徳教育 「道徳科」の授業づくり』（福村出版）の作成等の形式において公表した。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 笹田 博通	4. 巻 18
2. 論文標題 宗教と教育の間へ(1) - 啓蒙時代の宗教観を基調に -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『プロテウス 自然と形成 』	6. 最初と最後の頁 179-190
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤 安功	4. 巻 18
2. 論文標題 ルソーにおける人間と事物の相関についての現象学的理解の試み	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『プロテウス 自然と形成 』	6. 最初と最後の頁 105-132
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 相澤 伸幸	4. 巻 18
2. 論文標題 ドイツの宗教教育の現状と啓蒙的思考との関わり	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『プロテウス 自然と形成 』	6. 最初と最後の頁 169-178
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小池 孝範	4. 巻 18
2. 論文標題 フランス革命期における宗教と道徳の位置づけについて	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『プロテウス 自然と形成 』	6. 最初と最後の頁 153-168
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 笹田 博通	4. 巻 26
2. 論文標題 道徳・宗教・教育 - 仏教教育学の視点において -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本仏教教育学会 『日本仏教教育学研究』	6. 最初と最後の頁 79-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 相澤 伸幸	4. 巻 26
2. 論文標題 道徳科における宗教的教育の可能性についての一考察	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本仏教教育学会 『日本仏教教育学研究』	6. 最初と最後の頁 163-181
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小池 孝範	4. 巻 26
2. 論文標題 仏教教育と道徳教育の接点 日本の近代公教育黎明期における宗教と道徳の位置づけから	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本仏教教育学会 『日本仏教教育学研究』	6. 最初と最後の頁 25-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 笹田 博通	4. 巻 19
2. 論文標題 宗教と教育の間へ(2) 啓蒙時代の宗教観を基調に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 プロテウス	6. 最初と最後の頁 111-122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤 安功	4. 巻 19
2. 論文標題 ルソーとハイデガー 存在論的差異をめぐって	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 プロテウス	6. 最初と最後の頁 77-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 相澤 伸幸	4. 巻 19
2. 論文標題 『エミール』における宗教教育の教育史的意義 私教育に着目して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 プロテウス	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小池 孝範	4. 巻 19
2. 論文標題 18世紀後半のドイツにおける公教育思想の展開 宗教と道徳の位置づけを中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 プロテウス	6. 最初と最後の頁 13-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 笹田 博通
2. 発表標題 宗教と教育の接点 啓蒙時代の宗教観を基調に
3. 学会等名 日本ヘルダー学会秋季研究発表会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 相澤 伸幸
2. 発表標題 近現代の公教育における宗教と道徳の位置づけ(1) 人権・宗教・道徳をめぐって
3. 学会等名 日本ヘルダー学会秋季研究発表会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小池 孝範
2. 発表標題 近現代の公教育における宗教と道徳の位置づけ(2) 公教育黎明期における宗教と道徳をめぐって
3. 学会等名 日本ヘルダー学会秋季研究発表会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 相澤 伸幸
2. 発表標題 道徳教育において宗教的教育はどこまで可能か
3. 学会等名 第5回仏教教育学研究会シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小池 孝範
2. 発表標題 社会教育としての仏教教育と道徳教育
3. 学会等名 第5回仏教教育学研究会シンポジウム
4. 発表年 2018年

## 〔図書〕 計3件

1. 著者名 笹田博通、山口匡、相澤伸幸、小池孝範、八幡恵、吉川友能、走井洋一、齋藤雅俊、坂本雅彦、紺野祐、奥井現理、神林寿幸、清多英羽、池田全之、盛下真優子、寺川直樹	4. 発行年 2018年
2. 出版社 福村出版	5. 総ページ数 216
3. 書名 考える道徳教育 「道徳科」の授業づくり	

1. 著者名 小池孝範、紺野祐、泉山靖人、大迫章史、清羽英羽、吉植庄栄、奥井現理	4. 発行年 2019年
2. 出版社 学術出版社	5. 総ページ数 226
3. 書名 教育の原理 子供・学校・社会をみつめなおす	

1. 著者名 笹田 博通、佐藤 安功、相澤 伸幸、小池 孝範、松山 雄三、金浜 耕基、寺川 直樹	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東北大学大学院教育学研究科	5. 総ページ数 117
3. 書名 宗教と教育 啓蒙時代の宗教観および自然観を起点に (平成29~令和元年度科研費研究成果報告書)	

## 〔産業財産権〕

## 〔その他〕

-

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	佐藤 安功  (SATO Yasutaka)  (00154112)	仙台高等専門学校・総合科学系文科・名誉教授   (51303)	



## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	相澤 伸幸 (AIZAWA Nobuyuki) (20331259)	京都教育大学・教育学部・教授  (14302)	
研究分担者	小池 孝範 (KOIKE Takanori) (80550889)	秋田大学・教育文化学部・准教授  (11401)	
研究協力者	森 淑仁 (MORI Yoshihito)	  (11301)	
研究協力者	松山 雄三 (MATSUYAMA Yuzo)	  (31305)	
研究協力者	金浜 耕基 (KANAHAMA Koki)	  (11301)	
研究協力者	齋藤 雅俊 (SAITO Masatoshi)	  (31102)	
研究協力者	寺川 直樹 (TERAKAWA Naoki)	  (23603)	